

旭川市民文化会館の在り方検討会 開催結果について

- 1 会議開催経過**
- 2 第1回～第4回会議での主な意見**
- 3 「旭川市民文化会館の整備の方向性」に係る各参加者の意見**
- 4 「旭川市民文化会館の在り方検討会」全体の総括**

1 会議開催経過

① 第1回 旭川市民文化会館の在り方検討会

令和4年6月27日(月) 午後1時30分～午後3時35分

- ・ 検討会趣旨説明
- ・ 旭川市民文化会館の整備検討に係るこれまでの経緯について
- ・ 旭川市民文化会館の建物・設備等の現状について

② 第2回 旭川市民文化会館の在り方検討会

令和4年7月29日(金) 午後1時～午後2時30分

- ・ 大規模改修の事例について

③ 第3回 旭川市民文化会館の在り方検討会

令和4年8月22日(月) 午後1時30分～午後3時30分

- ・ 建替えの事例について

④ 第4回 旭川市民文化会館の在り方検討会

令和4年10月7日(金) 午後1時30分～午後3時10分

- ・ 第1回～第3回会議での意見の振り返りに基づく意見交換
- ・ 大規模改修と建替えの比較に関する意見交換
- ・ 旭川市民文化会館の整備の方向性に関する意見交換

⑤ 第5回 旭川市民文化会館の在り方検討会

令和4年11月11日(金) 午後1時30分～午後3時10分

- ・ 旭川市民文化会館の在り方検討会 全体の振り返りと総括について

2 第1回～第4回会議での主な意見

(1) 現市民文化会館の現状と課題に関する意見

(2) 市民文化会館の今後の整備に関する意見

(3) 場所に関する意見

(4) 費用対効果に関する意見

(1) 現市民文化会館の現状と課題に関する意見

分野	意見
① 建物及び設備の安全性	<ul style="list-style-type: none">安全な建物の中で、安心して演奏できる環境を整備することが重要。催事を見に来る利用者にとっては「まだまだ使える施設」という感覚だと思うが、主催者にとってホール設備の老朽化等は、何かあれば命に関わる問題。耐震性能という大きな課題がある。大規模改修では建物の外側が決まっているため、会議室や展示室、ホールの性能といった解決し切れない課題が多数あり、機能的に耐え切れないところまで来ている。
② ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none">建物内のいろいろなところに高低差がある。文化会館は、車椅子で進入できなかったり、急勾配の斜面だらけで大変。ホールの車椅子の座席数が少なく、自由に席が選べない。トイレにベビーキープ、おむつ交換台がない。建築当時としてはハイレベルな建物だが、現行基準に照らすといろいろな課題が出てくる。トイレをはじめ、時代に即した対応にアップデートしきれていない課題がたくさんある。
③ 機能性 (搬入路・利用環境)	<ul style="list-style-type: none">先進事例に比べ、暗く圧迫感がある。動線が大事で、文化会館は入口が少し狭く、暗いように感じる。搬入口の拡充について、現状の敷地を生かす改修では難しい。控え室やリハーサル室、更には音響・照明等の設備環境などが現代的でないために、やや使い勝手が悪くなっていることが見学に際して感じられた。

(2) 市民文化会館の今後の整備に関する意見

分野	意見
①-1 施設全般に関する意見	<ul style="list-style-type: none">・ カフェやストリートピアノを設置する等、気軽に来館できる仕組みを作ることが、催事等で来館するきっかけになる。・ コンサートに関心がない方は、文化会館に来る機会がないのが現実。・ 費用をかけて良かったという実感が得られるよう、普段利用しない方も含め、市民の共有財産として価値を高める整備の在り方が大切。・ 子供たちが行きたくなるような施設であれば、ホールに興味がない家族の子供でも、自分の居場所と思える場所になる。・ 次世代が使いたいものを造ってほしい。・ 日常と非日常の場として両立できれば、とても良い施設になる。・ コンベンションの誘致を考えると会議室は必要。・ 余白の大切さ、日常の使い方の重要さに共感。・ イベント等でフレキシブルな使い方ができる余白スペースがあると良い。・ 仮に建替えの場合、文化会館単独か、他の老朽化施設等の集約・複合的な建替えかは、今後詰めていく必要がある。

(2) 市民文化会館の今後の整備に関する意見

分野	意見
①－2 施設全般に関する意見	<ul style="list-style-type: none">・ 駐車場整備に際して、地下駐車場は来館者（特に高齢者や車椅子の方等）の利便性が低い上に費用も高額になるため、望ましくない。・ 市の新庁舎等も建物の中はユニバーサルデザインで良いが、一番の問題は外にある。バス等で行ったときに、雨に当たらずに市役所や文化会館に行けるような仕組みがあったら良いと感じる。・ 高齢者など移動困難な人が増えてきており、公共交通機関での移動を前提とする場合、バス停からすぐ建物に入れるような仕組みを考えたり、つながりをもって生活できるようなまとまりができれば、すごく良いと思う。

(2) 市民文化会館の今後の整備に関する意見

分野	意見
<p>②-1 ホール機能に関する意見 (座席の数や配置, 舞台設備機能など)</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 中規模ホールで、今後寿命を迎える現公会堂も含めた検討が必要である。・ 舞台の形が特殊であり、支障があるのでは（下手天井が低く、上手天井が高い等）。・ 引き綱位置がステージと平行になっていないので、スタッフは作業しづらいと思う。・ 大ホールは、1,200席や1,300席程度でも良いのではないか。・ 大ホールは、学会や式典を行う場合、道北地域全体のことを考えると、最低でも1,500席程度は必要になると思う。・ 小ホールは舞台が狭く使いづらいが、演者と観客の距離が近いことが大事。・ 小ホールは100席くらいの可変式客席にする考え方があっても良いと思う。・ 北海道内におけるこの施設の位置付けをどう考えるのかが大事。芸術寄りとするか、市民活動寄りとするかでコンセプトが大分変わるため、今後考えていく必要がある。・ いかに座席数が多く建物が立派でも、音が良くなければ利用されない。主催者・演者として使用する側の視点では、音響等の機能面が一番大切になる。

(2) 市民文化会館の今後の整備に関する意見

分野	意見
<p>②-2 ホール機能に関する意見 (座席の数や配置, 舞台設備機能など)</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 興行等で、札幌や他の道内地方都市には行くが旭川市には来ないという場合が多い。もし、文化会館の施設設備が原因だとしたら、設備面を重視した整備を行うことで、アーティスト等にも市民にも価値を実感してもらえる施設になるのではないか。・ 興行等で、札幌や他の道内地方都市には行くが旭川市には来ないという場合の理由については、今後構想・計画に際して施設のスペックを定める上で、情報収集と分析が必要になる。・ コンベンションの観点では、座席数は改めて分析が必要であるが、学会等では座席に収納可能な机などがあれば良い等の部分もある。・ 音響も含め、ホール内の機能にしっかりお金をかけて、旭川らしく魅力的なものにできれば、見学のために旭川へ来たいという切り口になるかもしれない。どこを尖らせていくかという部分は議論と分析が必要であるが、そうした視点もあると良い。・ 大規模改修にせよ建替えにせよ、機能性や座席数を検討する上で「文化会館で全てを担おうとするのかどうか」という点は考えなければならない。市が現在保有している公共施設との役割分担という部分もすごく大事になる。・ 積極的に旭川で学会を受けるということを考えたとき、民間との連携・分担という部分も重要になってくる。

(2) 市民文化会館の今後の整備に関する意見

分野	意見
③ 整備手法及び施設運営に関する意見	<ul style="list-style-type: none">・ 建て替えるとしたら、市民も巻き込み、皆でつくり上げる形にできると良い。・ ソフト面が重要。建物が立派でも、ソフト面が安定しないと、箱物行政になる。・ NPO法人や市民と一体となった取組は理想的。・ 税金で建てられる以上、特定の利用者に偏らず、使用方法は平等であるべき。・ 大規模改修で休館期間が発生した場合、興行やイベント等への影響が懸念される。・ 市民がしっかり施設整備に関するプロセスに入っていくことが大事。・ ワークショップや意見交換会など市民と話せる場の設置を検討したり、文化会館に来たり、検討の場に参加したいという子供たちを育てることも必要。・ 市民が、施設整備や運営のプロセスにどれだけ主体的に関わることができるかという部分で、「文化」の意味を「特定の方の趣味や嗜好」というところから広げていく、またアウトリーチについて積極的に考えていくことが大事。・ 施設の種類を考えると、全市民が納得いくような意味・意義等をどれだけもてるかという部分にかかってくる。それがなければ、約100億円をかけるという理屈が通らなくなってしまうので、議論のプロセスと成熟が今後のステップとして必要。・ 近隣に代替可能な施設がないとのことだが、本当に代替手段はないのか。施設の整備の方向性について結論を出す際、感覚的に施設の休館期間が嫌だというだけでは、議論に曖昧な点を残してしまう。 仮に1年～1年半の間、知恵を絞ってなんとか対応できたとして、そのためにどの程度の手間とお金がかかるかということ踏まえた上で判断する必要があると思う。

(3) 場所に関する意見

分野	意見
場所に関する意見	<ul style="list-style-type: none">• 他都市の事例では、敷地にゆとりがある郊外の場所に建設された施設が多くあり、現在地での建替えを検討するのも良いが、この場所でなくても良いのでは。• アクセスしやすく、集まりやすく、開かれていて、共有できる場所であることを実現している事例は、とても理想的。• コンベンションの誘致を考えると、駅や飲食店、ホテルが近い中心部の場所が望ましい。• 市外から観客として来てもらうためには、どんな施設であるかということに加え、その施設がどんな場所に所在しているのか、ということも大切だと思う。アーティストのコンサート等があっても、開催されるまちや周辺地域に魅力がなければ行かない、という方もいるかもしれない。• 常磐公園の公会堂近隣に、周辺施設を含めた形で建設して、カフェや飲食可能な場所を整備できると良いと思う。

(4) 費用対効果に関する意見

分野	意見
費用対効果に関する意見	<ul style="list-style-type: none">大規模改修は延命化に過ぎず、実施しても20年後には建替えの必要が生じる。大規模改修を実施した場合、現在・将来のニーズにどれほど応えられるか、耐える性能向上になるかがポイント。建替えの場合の100億円近い整備費は安くないので、費用対効果がポイント。コストにはイニシャルコストとランニングコストの二種類がある。初期費用のイニシャルコスト、使っていく中で発生する光熱水費や維持管理費等のランニングコスト、両面での費用対効果を考えるべき。大規模改修の方がイニシャルコストは抑制できるが、建替えに比べて光熱水費等のランニングコストはかかりがちになる。仮に大規模改修で建替えに近いくらいランニングコストを抑制可能な整備をする場合、イニシャルコストの段階で非常に高額になる。駐車場整備に際して、地下駐車場は来館者（特に高齢者や車椅子の方等）の利便性が低い上に費用も高額になるため、望ましくない。都心部であれば、駐車場を有料にして収益を上げるという考え方もある。費用対効果に関しては、立地や建て方次第で、必要となる費用が大幅に変わる可能性がある。ランニングコストに関し、どのくらい的人数がどのような仕組みで職員が従事するのかで、施設の運営に係る人件費はかなり変わってくるので、どのように人員を回していくのかという部分も考える必要がある。良いスペックの施設を建てれば、初期費用の財源として何億円という単位で税金を投入することになるため、当該費用をどう回収していくか、ということは今後考えなければならない課題になる。現行の施設使用料の算定方法については、今後施設をどう整備するかによって、料金や回収の仕組みを変えていくことも検討していく必要があると思う。

3 「旭川市民文化会館の整備の方向性」に係る各参加者の意見

意見 ①

- 建替えの方が妥当と考えている。
- 大規模改修の費用が35億円以上で20年程度しかもたないのに対し、建替えの場合は90～100億円以上を要するとはいえ、70～80年もつという点が多い。
- 現状のホールの在り方・機能面から見ても、ユニバーサルデザイン的な面から見ても、現代の要求に合ったものではない。
- 仮に大規模改修を行ったとして、将来の旭川市の人口推計を踏まえると、20年後には建てること自体がもう議論にならないかもしれない。
- 次世代の方々に良いものを残さなければならない。今の建物を残すよりは、このタイミングできちんと整備するべきと思う。
- 仮に大規模改修を行い、1年以上使用できない期間が発生すると、道北地域に代替可能な施設がないため、一定以上の規模の催事が、1年～1年半の間全く実施できなくなってしまう。他の場所へ建替える方法が採れば、回避することができる。

3 「旭川市民文化会館の整備の方向性」に係る各参加者の意見

意見 ②

- 建替えが良いのではないかと思う。
- 35億円以上をかけて20年程度しか使えないというのは、中途半端と感じる。
- どうせならば素晴らしいものを造って、未来ある子供たちに継承していきたい。
- 1年～1年半程度文化会館が使用できず、代替施設がないのは、地元の方や今まで文化会館を使用してきた方たちにとって影響が大きいと思う。その点からも、どこか別の場所に建替えというのが望ましい。

意見 ③

- 建替えの方が望ましいと考える。
- 旭川は、医大や大きな病院もあるので、1,000人以上規模の学会を誘致可能なポテンシャルがある。
- 観光やコンベンション等、広域的に近隣都市との連携を考えても、旭川にしっかりとした新しい施設があると、非常に誘致しやすい。
- 立地場所については、老朽化した施設やホテルなどの周辺施設の状況も考慮の上、検討していただきたい。

3 「旭川市民文化会館の整備の方向性」に係る各参加者の意見

意見④

- 現時点の機能を考えると、大規模改修をして、20年後にまた大きな負担をするよりは、**建替えをするべきと思う。**
- 「何のための施設なのか」ということを考える必要がある。地方格差はお金の面だけでなく、文化の面でも埋められなくなっていると言われるが、文化がどうしてもまちに必要なのか考えたとき、良い芸術に触れられる環境があるということが、未来の人材を育てていくものと思う。
- 文化会館は、芸術として良いものに出会える場所・機会だと考えている。使い勝手の良し悪しなどもあるが、やはり文化芸術として良いものに出会えるよう、音響等には最低限配慮すべき。
- 地域とのつながりという視点では、多様な人が利用できる施設であるべきと思うが、旭川市では、市民が施設を造るプロセスに入っていく場面を十分に設けることができないまま建物が先にできてしまったために、利用頻度が低かったり、市民が集う場になっていない施設があり、それが反省点だと思っている。プロセスに市民がしっかり入っていくということが大事。
- ランニングコストはどのような建物かによっても変わる。

3 「旭川市民文化会館の整備の方向性」に係る各参加者の意見

意見 ⑤

- 主催者側の目線になるが、大規模改修を行う場合に、1年～1年半にわたって上川・道北地域に代替施設のない状態で休館するというというのは、非常に厳しい。
- 建替え又は大規模改修のどちらを実施しても、今度は公会堂が駄目になる。そのとき公会堂が建替えになるのかといえば、そういう議論にならないと思う。公会堂の扱いも考えた上で、建替えではないかと思う。
- 現在の公会堂近隣に、周辺施設を含めた形で建設して、カフェや飲食可能な場所を整備ができると良いと思う。

3 「旭川市民文化会館の整備の方向性」に係る各参加者の意見

意見 ⑥

- 周りの子育て世代の方は、大規模改修か建替えのどちらかと聞くと建替えと答えるので、今の建物には限界があるのは理解できるが、建替え費用を自分の子供たちが出すと思うと、それは望ましくないという意見。
- 実際の使用者となる子供たちが使用したいと思えるような施設の建替えを想定し、準備していくことが必要。
- 文化会館は市民が誇りに思える場所であるという感覚が、あまり市民に浸透していないような気がして、そこが問題であると感じる。1,000人規模のホールという文化会館の存在感と、市民の必要性が近くなると良い。
- ワークショップや意見交換会など市民と話せる場の設置を検討したり、文化会館に来たり、検討の場に参加したいという子供たちを育てることも必要。
- 防衛・防災機能をもたせることなども、施設の在り方を検討する一つの視点になり得ると思う。
- 全部を踏まえた上で、**建替えが良いのではというのが正直な思い。**建替えに必要な資金や材料などについて、今のうちから備えておくことができれば良い。

3 「旭川市民文化会館の整備の方向性」に係る各参加者の意見

【大規模改修の評価】

- 用途転用の可能性という点について、ホールという建物は特殊な造り方をしている、学校のように他の用途に転用することが難しく、改修してもホールとしての使い方しかできないため、ほとんど利点がない。
- 改修をすることで建て替える時期を積極的に先延ばしにすることができるという点。これは、先延ばしした方が、そのときに造るものの効果や将来性が高まることがポイントになるが、文化ホールの建替えを先延ばしにすることで考えられる効果等が時代的に大きく変わるかといえ、そう変わらないと想定されるため、これも大きな利点にはなり得ないと思う。
- 脱炭素の視点で、基本的に使えるものは限界まで使った方がよいということになるが、文化会館の場合、仮に建替えを先送りして15～20年後に解体したとしても、劇的な技術革新が起こっているとは想定しづらく、建設時・解体時のCO²を大きく削減することは難しいため、大規模改修に大きなアドバンテージはないものと想定される。
- 以上から、大規模改修については、積極的に行う理由が見つからない。

3 「旭川市民文化会館の整備の方向性」に係る各参加者の意見

【建替えの評価】

- 建替えのメリットは、現代的な性能にフィットさせることができるという点。今不満がある部分を現代的に変えることができるというもので、断熱性能などは、建替えにアドバンテージがある。
- 将来を見据えた仕様にできるという点。昔の公共施設は、長期維持プランを立てていなかったが、現代の建物設計ではきちんと考えて建てるため、昭和的な設計と令和的な設計では、随分変わってきている。この点は建替えを行うことのメリットになる。
- 今後の公共施設をリニューアルする際に一番大事なことは、他の公共施設との連携という点であるが、現状の施設を使い続ける中では、あまり工夫の余地がない。人口減少などの変化を踏まえ、積極的に公共施設全体としての効率化を考えたとき、文化会館がどのような役割を担うのかという部分を考えるチャンスでもあり、建替えのメリットになる。
- 以上のとおり、大規模改修を行う積極的な理由がない一方で、建替えを行うメリットの方が多い。

3 「旭川市民文化会館の整備の方向性」に係る各参加者の意見

意見 ⑧

- 市内のどの施設にも共通して言える話であるが、建物はどこも立派だと思うが、もう少し面白いことを考えれば良かったと思っている。
- 建物の中はユニバーサルデザインで良いが、一番の問題は外にある。バス等で施設に行ったときに、雨に当たらずに市役所や文化会館に行けるような仕組みがあると良い。
- 今は線にすらなっておらず、点でしかない状況。どこへ行っても不便なく過ごせてはいるが、車で移動する際や、子どもを連れていくときに、特定の施設しか使わない。
- 高齢者など移動困難な人が増えてきており、公共交通機関での来館を想定したとき、バス停からすぐ建物に入れるような仕組みをしっかりと考えたり、つながりをもって生活できるようなまとまりができれば、すごく良いと思う。
- 建替えかどうかについては、仮に別の場所に建てるとしても、周りに何もなければ話が変わってくると思うので、立地が問題になると思う。

4 検討会全体の総括

(1) 大規模改修と建替えのどちらが望ましいと考えるか

○ 意見集約のプロセス

- 第1回会議で施設の現状と課題について情報共有
- 第2回会議で大規模改修の概要などを踏まえて意見交換
- 第3回会議で建替えの事例などを踏まえて意見交換
- 第4回会議で「大規模改修と建替えのどちらが望ましいと考えるか」について意見交換

○ まとめ

全体として

「建替えの方が望ましい」との意見が多くを占め、
大規模改修について積極的な意見はなかった。

4 検討会全体の総括

(2) 今後の検討に際して留意すべき点

意見をもとに、今後の検討における留意点を次のとおり整理した。

理念 ・目的 ・コンセプト	<ul style="list-style-type: none">● 北海道内や道北地域における位置付け（役割）● 市民活動での利用を優先するか，興行など一般利用も同等とするか
機能 ・ホール(座席数等) ・会議室・展示 ・駐車場の確保	<ul style="list-style-type: none">● 公会堂の今後も踏まえた施設機能と規模● 機能を検討する上で必要な情報の収集と分析● 他の市内公共施設との役割分担● 駐車場整備の在り方
施設の形態	<ul style="list-style-type: none">● 単独施設とするか，複合施設とするか <p>※「単独」：現施設の機能（大ホールを中心とした機能）を有すること 「複合」：現施設の機能に，新たな機能を追加すること</p>
場所	<ul style="list-style-type: none">● コンベンションの実施・誘致に適した立地（宿泊施設に近いなど）● 市外からのアクセスのしやすさ● 周辺も含めた立地環境の考慮
運用	<ul style="list-style-type: none">● 管理・運営体制の構築
推進方法・体制	<ul style="list-style-type: none">● 市民の理解が得られる検討プロセス（整備面・運用面）の構築● 将来利用者となる子供たちが興味をもつ仕組みの構築● 市民に価値や必要性を理解してもらえるようなプロセスと議論の成熟

※費用は平成26年度に策定された旭川市民文化会館大規模改修基本設計での積算額であり、令和4年度現在の積算額ではない。

[参考]大規模改修と建替えの比較

項目		大規模改修	建替え
費用	イニシャルコスト	35億円以上（舞台機構の改修費は含まず）	90～100億円以上
	ランニングコスト	・ 建替えに比べ高額になりがち（建替えと同等にする場合、イニシャルコストが高額になる）	・ 大規模改修に比べ、一般的に安価
場所の選択肢		現在地に限る	市内で選択可（一定の敷地面積が必要）
使用可能年数		20年程度	80年程度 （長期使用建物と位置付け、適切な予防保全を実施する場合）
基礎機能	ホール（座席数、座席の配置等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現面積内で調整するため、席間隔を広げる場合は、席数の減が必要 ・ 座席の配置は基本的に現状のまま 	・ 座席数及び座席の配置は、ある程度自由に設定可能
	バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たにエレベーターを設置することで、小ホール・展示室等へ車椅子でアクセスすることが可能となる ・ 一定の段差解消は可能だが、急勾配等の全面解消など、構造上対応できない点も多い 	・ 現行のバリアフリー基準に適合した設計が可能となる
	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状に比べて一定の増設が可能だが、施設空間は狭窄化する ・ 旭川市民文化会館の場合、ウォシュレットの設置は困難 	・ 利用実態を踏まえた十分な質・量の整備が可能
	搬入車両スペース及び搬入路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一部改修可能だが、敷地面積が変わらないため、車両の取り回し等に課題が残る 	・ 敷地を確保した上で、安全かつ効率的な搬入車両の駐車スペース及び搬入路の形成が可能
付帯機能		<ul style="list-style-type: none"> ・ エントランス・ホワイエを開放 ・ 大小ホール・展示室・会議室などの大幅な配置変更は困難であり、新たな付帯機能の整備には制約がある 	・ 付帯機能を検討することにより、ホールの催事以外にも、日常的に市民が訪れることができる施設として造成可能
休館期間		1年～1年半	なし（現地建替えを除く）